

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議委員

氏 名	現 職	備考
○ 青野 正	新居浜商工会議所会頭	代理出席
北山 慎一郎	住友化学株式会社 理事 基礎化学品研究所長	代理出席
黒木 隆男	日本放送協会松山放送局長	
◎ 小松 正幸	国立大学法人愛媛大学長	
佐々木 龍	新居浜市長	
竹田 法俊	愛媛県小中学校長会副会長松山市立南第二中学校長 (中学校部会長)	
平田 利實	ユースエンジニアリング株式会社 取締役会長	

◎は会長、○は副会長

(五十音順・敬称略)

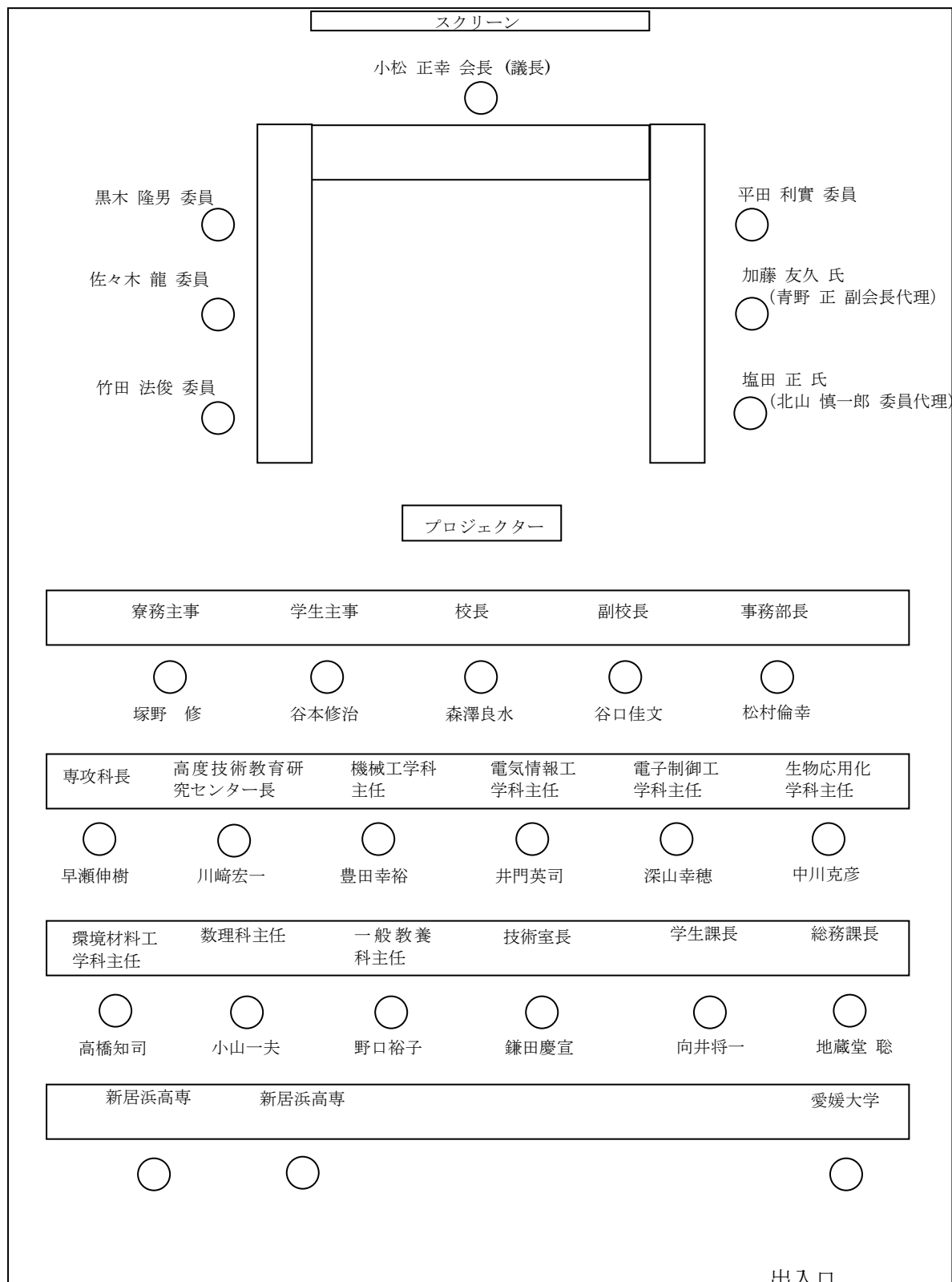
代理出席者

加藤 友久	新居浜商工会議所専務理事 (青野委員代理)
塩田 正	住友化学株式会社知的財産センター主席部員 (北山委員代理)

学校側出席者

職 名	氏 名
校 長	森 澤 良 水
教 務 主 事	谷 口 佳 文
学 生 主 事	谷 本 修 治
寮 務 主 事	塚 野 修
専 攻 科 長	早 瀬 伸 樹
高 技 セ ン タ ー 長	川 崎 宏 一
機 械 工 学 科 主 任	豊 田 幸 裕
電 気 情 報 工 学 科 主 任	井 門 英 司
電 子 制 御 工 学 科 主 任	深 山 幸 穂
生 物 応 用 化 学 科 主 任	中 川 克 彦
環 境 材 料 工 学 科 主 任	高 橋 知 司
数 理 科 主 任	小 山 一 夫
一 般 教 養 科 主 任	野 口 裕 子
技 術 室 長	鎌 田 慶 宣
事 務 部 長	松 村 倫 幸
総 務 課 長	地 藏 堂 聡
学 生 課 長	向 井 将 一
総 務 課 課 長 補 佐	村 上 剛
総 務 企 画 係 長	筒 井 隆

座 席 表



会場表示

運営諮問会議日程表

1. 日 時 平成21年3月2日（月） 14：00～16：30

2. 場 所 第一会議室

3. 日 程

時 刻	次 第
14：00	運営諮問会議 ○会長選出 ○会長挨拶 ○副会長選出 ○議事
14：20	①最近の学校の主要動向の報告（校長）〔資料1〕 ②前回運営諮問会議のフォローアップ報告〔資料2〕 ・キャリア教育の現状と充実策について（学生主事） ・国際交流の現状と推進方策について（国際交流推進室長） ・JABEE プログラムについて（専攻科長） ・その他（学生主事） ○休憩（10分） ○議事 ・機関別認証評価の結果（点検専門部会長）〔資料3〕 ・地域と連携した教育活動の取組（高技センター長）〔資料4〕 ・入学志願者の確保（教務主事）〔資料5〕 ③意見交換
16：30	運営諮問会議終了

(1) 学校の主要動向の報告

最近の学校の

主要動向 の 報告

平成21年3月2日(月)
新居浜工業高等専門学校

平成20年度卒業予定者等の進路状況

1. 卒業予定者の進路状況(本科)
2. 修了予定者の進路状況(専攻科)
3. 本科求人倍率(年度比較)
4. 専攻科求人倍率(年度比較)
5. 本科進学先(平成19年度卒業生)
6. 専攻科進学先(平成19年度修了生)

平成20年度

1. 卒業予定者の進路状況(本科)

平成21年2月1日現在

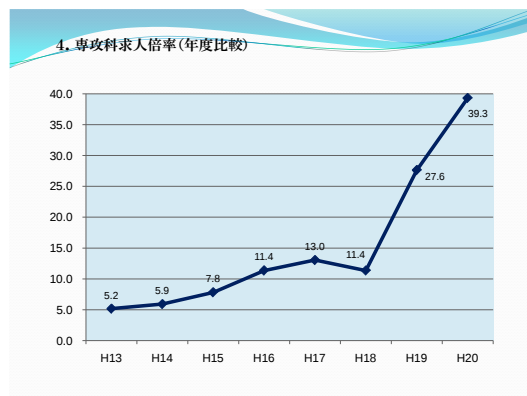
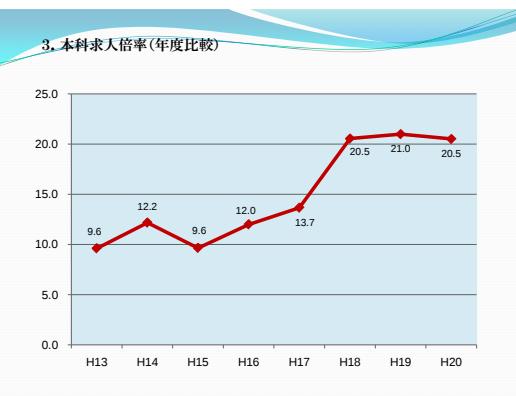
区 分	学科・専攻	卒業予 定者	就職		就職内定内訳		進学	その他(自 営含む)	求人総数	求人倍率 (倍)
			内定者	県内	県外	進学内定者				
本 科	機械工学科	42	28	4	24	14	0	734	26.2	
	電気情報工学科	41	21	2	19	19	1	616	29.3	
	電子制御工学科	40	25	5	20	10	5	537	19.2	
	生物応用化学科	41	23	4	19	16	2	257	11.2	
	材料工学科	28	22	13	9	5	1	359	16.1	
	本科計	192	119	28	91	64	9	2503	20.5	

平成20年度

2. 修了予定者の進路状況(専攻科)

平成21年2月1日現在

区 分	学科・専攻	修了予 定者	就職	就職内定内訳		進学	その他(自 営含む)	求人総数	求人倍率 (倍)
			内定者	県内	県外				
専攻科	生産工学専攻	7	7	1	6	0	0	322	46.0
	生物応用化学 専攻	4	1	0	1	2	1	132	66.0
	電子工学専攻	14	10	1	9	2	2	331	30.1
	専攻科計	25	18	2	16	4	3	785	39.3



5. 本科進学先

豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、富山大学、
福井大学、岐阜大学、山梨大学、電気通信大学、
東京農工大学、名古屋大学、京都大学、神戸大学、
広島大学、鳥取大学、島根大学、山口大学、香川大学、
徳島大学、愛媛大学、九州大学、新居浜高専専攻科
(78名)

6. 専攻科進学先

豊橋技術科学大学大学院、
京都大学大学院、
徳島大学大学院
(3名)

国際交流の推進

- サザンクロス大学(オーストラリア)
 1. 短期海外英語研修旅行の実施
 2. 学術交流に関する協定書の締結
- 海外インターンシップ
 3. 海外インターンシップの実施

1. 短期海外英語研修旅行の実施

専攻科生2名、本科生16名、引率教員2名



2. 学術交流に関する協定書の締結



・学生及び教職員の交流
・共同研究
・学術的事項の交流

3. 海外インターンシップの実施

～受入各社の海外拠点の協力で、国際的に活躍できる
人材養成～

対象者：学生及び教職員

- ・本校派遣決定学生 1名
(派遣先：三井化学株式会社、シンガポール)
- ・本校派遣決定教職員 1名
(派遣先：常石造船カンパニー、フィリピン)

学習環境等の整備

1. 耐震工事等
2. キャリア教育プラザの整備
3. 学習環境の整備
4. 空調機の整備

1. 耐震工事等

- 向陽寮
- 雄風南寮
- 雄風北寮
- 図書館棟
- 武道場
- 生物応用化学科棟
- 緊急地震速報設備

2. キャリア教育プラザの整備

- 環境材料工学科棟2階内部改修その他工事
- 備品の整備
 - ・カウンター
 - ・机
 - ・イス など
- 就職・進学関係資料の整理と陳列
 - ・求人票
 - ・パンフレット

3. 学習環境の整備等

- 向陽寮及び雄風北寮寮室床張替及び壁塗装
- 生物応用化学科棟西出入口照明設置
- 北門バイク駐輪場屋根設置
- 学生自転車駐輪場照明設備設置

4. 空調機の整備

- 空調機用電源整備
- 合併教室棟2・3階
- 機械工学科棟
 - ・1階一般化学実験室、3階階段教室、製図室、準備室
- 学寮食堂厨房
- 尚友会館1階談話室
- 尚友会館1階食堂空調機更新
- 情報教育センター第1演習室空調機更新
- 図書館棟2階閲覧室空調機更新

(2) 前回運営諮問会議のフォローアップ報告

第3回運営諮問会議の各委員の意見に対する対応

指 摘 事 項 等	対 応 状 況
1. キャリア教育の現状と充実策について ○ 卒業生への継続的なフォロー ○ 進路指導法 (学生主事)	各学科で個別に対応している。学校全体としての統一的フォローについては検討中である。 キャリア教育プラザを整備した。これの有効活用を図り低学年からキャリア意識の向上を図りたい。
2. 国際交流の現状と推進方策について ○ 国際交流の充実 ○ 留学生受入先と渡航先 ○ 第2外国語としてのドイツ語のあり方 (国際交流推進室長)	オーストラリアのサザンクロス大学との交流協定を締結し、学生及び教職員の交流、研究交流等の分野で協力体制を整備した。 第2外国語として、平成18年度より中国語も選択できるようになった。また、専攻科の科目である「独語演習書講読」は、ヨーロッパ文化論という一般教養科目に変更した。
3. JABEEプログラムについて ○ 専攻科修了生が有すべきレベルの設定及び厳密な成績評価の実施 (専攻科長)	生物応用化学プログラムでは「レビュー室」を設置し、試験問題が到達目標をチェックするものになっているか、シラバス通りの成績評価が行われているかどうかを主要科目について定期的にチェックし、科目担当者にフィードバックする体制を整えた。他専攻についても、生物応用化学科の取組等を参考に検討中である。
4. その他 ○ 学生指導 (学生主事)	全教員による輪番での校内外巡回を実施し、その都度、全教職員にメールで状況を報告し、教職員全体の学生指導に対する意識向上を図っている。

(3) 機関別認証評価の結果

機関別認証評価の結果

平成20年度運営諮問会議(H21.3.2)

独立行政法人大学評価・学位授与機構による
平成19年度実施高等専門学校機関別認証評
価の評価報告書に掲載された「優れた点」と
『自己評価書』に記載した改善すべき点と対応

平成16年度より高専機構が大学評価・学位
授与機構による機関別認証評価を受審し、
本校は平成19年度に評価を受けた。

- ・評価機構による書類審査をうけるために『自
己評価書』を作成し、平成19年6月に提出し
た。
- ・平成19年11月13日～15日に訪問調査を
受け、施設調査、教職員・学生・卒業生に対
する面接調査、『自己評価書』に関する調査
が行われた。

以下は、
平成19年度受審大学評価・学位授与機構
による認証評価の『評価報告書』
に掲載された「優れた点」である。

基準3 教員及び教育支援者

【優れた点】

- 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切
に実施するための取組として行われている、教務
委員会が実施している学生による学級担任アン
ケートは、特色ある取組である。

基準5 教育内容及び方法

【優れた点】

〈準学士課程〉

- 準学士課程4、5年次において学修単位が導入され
ている授業科目では、課題名や時間数を記録する「自
学自習課題シート」が導入され、自学自習の意識付け
に効果的に活用されており、特色ある取組である。
- 「創造化学実験」では、学生が自ら実験計画を立案・
実施するセルフプランニング実験による教育方法の工
夫が行われており、学生自ら実験装置及び実験方法等
について考える能力の育成が図られている。

〈専攻科課程〉

- 「問題解決グループ演習」では、ブレインストーミングやKJ法のほかに研究開発シミュレーション法などを取り入れながら、グループのメンバーで与えられた課題について議論し、解決策を立案していく過程を通じて創造性の育成に努めており、優れた教育方法の工夫が行われている。

基準6 教育の成果

【優れた点】

- 卒業(修了)生の就職率(就職者数/就職希望者数)が高く、就職先は各専門分野の製造業や技術サービス業等で各学科・専攻の専門性が活かされる業種となっている。また、進学率(進学者数/進学希望者数)も極めて高く、進学先は高等専門学校専攻科をはじめ工学系の学部、研究科など各学科・専攻の専門分野・研究分野が活かされており、教育の目的に沿った成果や効果が十分に上がっている。

基準7 学生支援等

【優れた点】

- 学習支援として、数学や物理の補習で上級生によるTAを取り入れていること、及び長期休業中の学習支援プログラムの実施、さらには学科の教員で構成されるアドバイザーによる学習の相談・指導体制は、特色ある取組である。

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

【優れた点】

- 学校運営重点目標及び教育改善方策に基づいて、学科・委員会・センターごとに、あるいは各学年・各学級、そして各教員が目標や計画を立て実行し、年度末に自己点検・評価をしており、改善を図るシステムが多面的に整備され、学校内の各層に浸透し機能している。
- 授業公開をはじめとするファカルティ・ディベロップメントの取組は、教員の自主的な活動としてだけでなく各学科や各委員会で組織的にも行われ、その結果、教育の質の向上や授業改善に結び付いている。
- 準学士課程・専攻科課程ともに、授業アンケート、勉学アンケート、学級担任アンケート、学生会や寮生会代表との懇談、各学科での学生と教員との懇談等を通して、学生の意見を聴取するための取組が組織的に行われている。

選択的評価事項A 研究活動の状況

【優れた点】

- 高度技術教育研究センターを拠点とした研究支援体制の下で、目的に照らした研究活動が行われており、知的財産関連では取得したノウハウについて製品が発売されるなど、特色ある取組が行われている。

選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

【優れた点】

- 文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)―地域活性化への貢献(地元型)」に採択された「地域連携プロジェクト型のつくり活動―工都新居浜の活性化プラン―」に基づく学生参加型出前講座などの実施や「現代GPものづくり教育フォーラム」の開催をはじめとし、独立行政法人科学技術振興機構のサイエンス・パートナーシップ・プロジェクトの教員研修など、目的に照らした特色ある取組がなされている。

平成19年度受審大学評価・学位授与機構による認証評価における自己評価書に掲載した改善を要する点およびその対応

(基準1) 高等専門学校の目的

学生の教育目標に対する認知度が低く、改善を要する。

(改善・対応)

すべての教室に教育目標を記載したパネルを掲示して、認知度を向上させる取り組みを行った。その結果は、「勉強アンケート」により確認する予定である。

(基準2) 教育組織(実施体制)

一般科目と専門科目を担当する教員間の連携は十分に行われているとは言えず、改善を要する。

(基準4) 学生の受入

準学士課程の「入学者受入方針」には求める学生像しか明記されておらず、選考方法は記載されているが、入学者選抜の基本方針は明文化されていない。

また、入学者受入方針に沿った選抜が行われていることの検証方法は、入学後の追跡調査の実態などにより改善していく必要がある。

(改善・対応)

学生募集要項およびウェブサイトに入学者選抜の基本方針を明記した。

(基準5) 教育内容及び方法

専攻科課程の創造性を育む授業について、生物応用化学専攻では適切な科目の設定が遅れている。

(基準6) 教育の成果

学生自身が行う教育目標の達成度評価は、適切な方法で実施されているとはいえず、改善が必要である。

(4) 地域と連携した教育活動の取組

地域と連携した教育活動の取組

- 1 現代GP
- 2 出前講座
- 3 工業技術懇談会

新居浜高専 高技センター長
川崎 宏一

1 現代GP 地域連携プロジェクト型ものづくり活動 ～工都新居浜の活性化プラン～



☆「ものづくり人材育成」

- ・高専生;ものづくり・出前授業を体験学習として実践
知恵と行動力をもつ、信頼される技術者の育成
- ・小中学校での科学教育の支援
将来の技術者の輩出による工都新居浜の活性化

☆「まちづくり・地域の求心力向上」

- ロボット・ITプロジェクトによる技術者育成及び
地域活性化

◇3次元樹脂モデル造形機の導入と活用

平成20年度実績

- ・ 出前活動（小中学生対象） 33件（平成19年度26件）
（参考:イベントへの参加 9件）
- ・ 実技研修会 3件
（新居浜市・新居浜高専協定に基づく実施事項）
小学校理科、中学校理科
中学校技術科
- ・ まちづくり 3プロジェクト

平成21年2月23日現在

出前授業（小中学生対象）

区分	件数	詳細
小学校での出前授業	21	新居浜市20(高津8、中萩6、金子1、角野1、船木1、新居浜1、垣生1、大生院1)、西条市1(橋1)
中学校での出前授業	5	新居浜市5(角野2、南2、川東1)、
公民館での出前授業 小学生対象	6	新居浜市2、西条市4
新居浜高専での講座 小学生対象	1	砥部町小学生
計	33	

出前授業

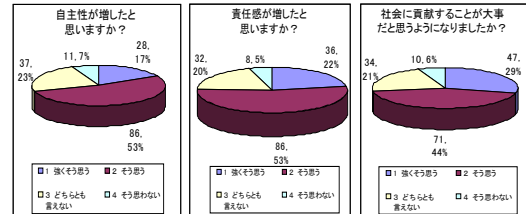


出前授業 新居浜 金子小学校



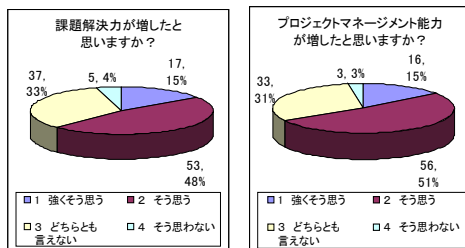
☆ 新居浜高専 参加学生のアンケート 162名

出前授業の実験技術指導において小中学生へ教える体験を通じて



☆ 低学年を指導した学生 112名

低学年を指導する体験を通じて



小中学校教員 教材開発実技研修会

○「小中学校理科 夏季実技研修会」
平成20年8月6日(月)9:00～16:00

①小学校理科 9名

「キッチン電池を作ろう」

出前授業を実施 新居浜市 高津小 中萩小

②中学校理科 14名

「ホバークラフト・点滅回転体の作製とストロボ写真撮影」

「デジタルカメラでおもしろ実験」 物体の動き等

授業を実施 新居浜市船木中、理科クラブへ出前 川東中

○「中学校技術科 夏季実技研修会」 8名

平成19年7月28日(月) 9:00～16:00

「ウインドカーの作製」

「ネットワークを使ったテレビ会議システム作り」

小中学校教員教材開発実技研修会

小学校理科

中学校理科



中学校技術



新居浜高専 参加学生数

	専攻科 専攻科							
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	計
出前活動	19	45	82	5	31	2	0	184
実技研修	0	4	4	3	7	0	1	19
まちづくり	0	0	0	0	14	2	0	16
総計	19	49	86	8	52	4	1	219

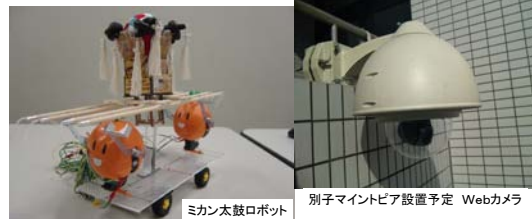
他にイベント参加 85名
(平成19年度181名 イベント127名)

平成20年度 延べ人数 平成21年2月23日現在

まちづくり 3プロジェクト

+ 青少年ものづくりコンテストプロジェクト

- まちづくりシンボルロボプロジェクト
- 商店街活性化パフォーマンスロボットプロジェクト
- 産業遺産情報システム開発プロジェクト



現代GP まとめ

- 小中学校教員と新居浜高専とのネットワークが進展
地域ものづくりコーディネーターにより連携が進んだ。
連携が強化されて、33件の出前授業等の実績が得られた。
課外活動の制約にかかわらず、高専教員の取組が進んだ。
- 新居浜高専学生の参加が進化した。 219名
アンケート結果は肯定的で、自主性・責任感等の教育効果がみられる。異学年の体験学習の効果も見られた。
- 石川・富山高専の現代GP発表会で、招待校としてプレゼンを行った。

○現状の課題

- 出前時間帯の調整
- 高専の授業時間との調整、課外活動としての制約

○現代GP終了後の出前授業等の自主的な活動継続

2 出前講座

- 小中学生向け30講座(ものづくり・実験を主体)

出前サイエンス講座<ドクターKOSENのおもしろ講座>



- 市民対象 28講座

- 新居浜高専市民講座・ものづくり講座

小中学生向け30講座

科学の祭典

電子オルゴール



新居浜高専市民講座・ものづくり講座

新居浜市 生涯学習センターと共催

☆市民講座を継続開催 7講座



嘉納治五郎と中国

お月様の知られざる正体

新居浜高専市民講座・ものづくり講座 新居浜市 生涯学習センターと共催

☆ものづくり講座を開始 4講座
環境材料工学科 担当
(新居浜市・新居浜高専協定に基づく実施事項)



金属組織



3 工業技術懇談会 第43回 新居浜高専工業技術懇談会 平成20年12月9日(火)



阿南高専 日亜化学 寄付講座
塚本 教授 講演

日亜化学工業(株) 神原 氏講演

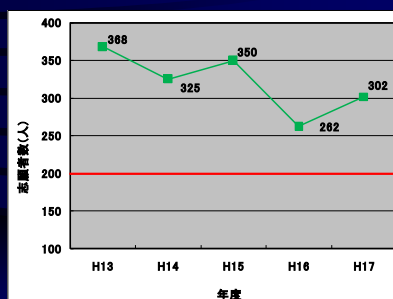


(5) 入学志願者の確保

入学志願者の確保について

教務主事
谷口 佳文

志願者数の推移(H13～17年度)



第2回運営諮問会議(H17. 10. 20)で報告

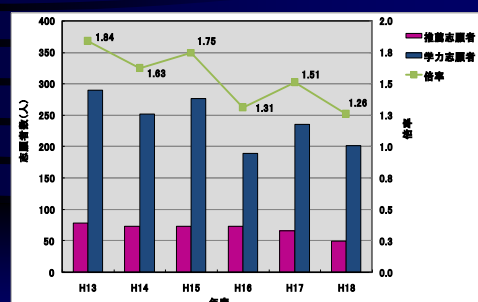
入試広報実施状況(H17年度)

主な広報活動

- ・中学校訪問の実施
- ・進路説明会への講師派遣
- ・夏季体験学習の実施
- ・学校見学会の実施
- ・ものづくりフェスタin松山の実施

第2回運営諮問会議(H17. 10. 20)で報告

志願者数の推移(H13～18年度)



選抜方法の見直し(H18年度)

推薦による選抜

受入数

各学科とも募集人員の35% (40%)程度

出願資格

5科目の評定が、第3学年の1学期と2学期いずれも5段階評価で平均4.0以上 (3.8以上) の人 又は、数学及び理科の評定が第3学年の1学期と2学期いずれも5 (平均4.5以上) の人

推薦者数

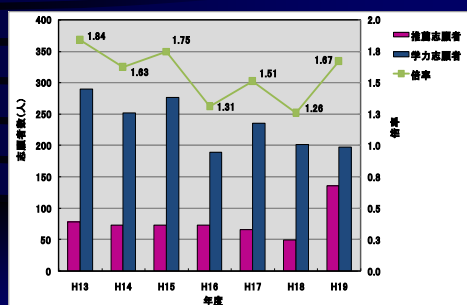
中学校が推薦できる人数に関する制約 (削除)

入試会場の増設

推薦選抜: 新居浜高専、松山地区

学力選抜: 新居浜高専、松山地区、宇和島地区、三好地区、福山地区

志願者数の推移(H13～19年度)



広報推進本部の設置(H19年度)

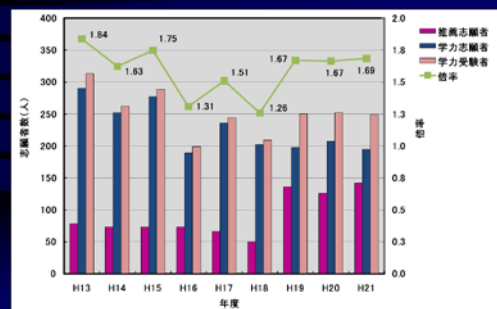
目的

広報活動の総合的かつ効果的な推進と機動性を図る

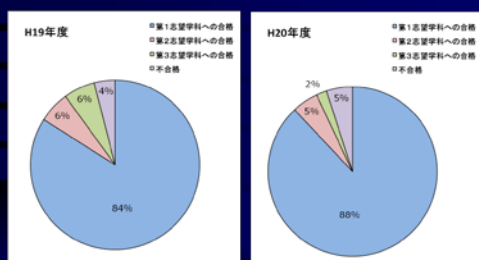
組織

- ・入試広報担当
- ・広報誌編集企画担当
- ・イベント担当
- ・ホームページ運営担当
- ・メールマガジン担当

志願者数の推移(H13～21年度)



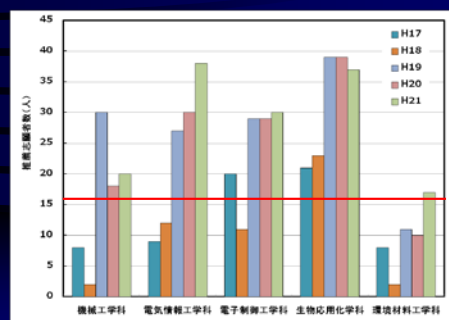
推薦選抜不合格者の学力選抜結果



推薦選抜不合格者数 52名

推薦選抜不合格者数 45名

推薦選抜志願者数の推移



入試広報実施状況(H20年度) (1)

校長・副校長

- ・校長会理事校への挨拶回り(5月下旬～6月上旬)
新規理事校および校長が交代した理事校7校に出向き、挨拶をかねて、本校の教育・入試・進路等の概要を説明
- ・地区別学校説明会(6月上旬～下旬)
中学校長、進路指導主事等を対象に、本校の教育・入試・進路等について説明
参加状況: 東予地区 22校34人、松山地区 24校24人
宇和島・八幡浜地区 18校18人

入試広報実施状況(H20年度) (2)

入試広報担当

入試広報担当が中学校との窓口となり、それぞれ21名ずつの教員が、中学校訪問、進路説明を分担して実施

・中学校訪問

- 1回目: 6月上旬～7月下旬 訪問校107校
進路指導主事、3年学年主任等と面会し、本校の概要、入試状況、進路状況、学寮、経費等の説明、および中学校から情報を収集
- 2回目: 12月上旬～1月上旬 訪問校38校(東予地区)
学生募集要項を持参し募集内容の説明、受験希望者の情報を収集

・進路説明会への講師派遣(6月中旬～11月下旬)

中学3年生と保護者を対象に、本校の特色、入試内容等を15分程度で説明
派遣校: 49校

入試広報実施状況(H20年度) (3)

イベント担当

- ・夏季体験学習(7月25、26日)
 - 中学生を対象に、本校の施設や装置を使ってものづくりや実験を体験してもらう。
 - 参加者: 568人
- ・ものづくりフェスタin松山(8月1、2日 愛媛大学城北キャンパス)
 - 小中学生と保護者に、「科学の不思議」や「ものづくりの楽しさ」を体験してもらうとともに、新居浜高専を紹介する。
 - 参加者: 小中学生 91人、保護者 26人
- ・学校見学会(9月6日)
 - 中学生と保護者に、各学科の施設・設備、学生福利厚生施設、学寮等を見学してもらう。
 - 参加者: 中学生 181人、保護者 66人

入試広報実施状況(H20年度) (4)

イベント担当

- ・入試情報コーナーの開設(11月8、9日)
 - 国領祭時に、受験相談・展示・ビデオ上映コーナー、入試問題解説コーナー、学科別ミニ見学会を実施
 - 参加者: 中学生 163人、保護者等 93人
- ・他機関主催のイベントへの参加
 - 大洲青少年交流の家フェスティバル
 - 主催: 国立大洲青少年交流の家
 - みんな集まれ! わくわくサイエンス広場
 - 主催: 愛媛県総合科学博物館

入試広報実施状況(H20年度) (5)

広報誌編集企画担当

- ・CATV用CMの作成
 - 入試情報コーナー、入試日程等の紹介CMを作成し、10月～12月にかけて、CATVで放送
- ・新居浜高専の紹介番組の作成
 - CATV新居浜市行政広報番組 マイタウン新居浜で「新居浜高専の地域貢献活動」を紹介(約15分)
 - 12月2日～31日放送
- ・平成21年度カレンダーの作成
 - 下敷仕様の広報カレンダーを作成し、県内外の中学2年生に約20000枚を配付
- ・「はばたけ! 未来へ 2010」の作成
 - 新入生にアンケートを実施し、意見・要望を反映
- ・新居浜高専説明用CDの作成

入試広報実施状況(H20年度) (6)

ホームページ運営担当

- ・ホームページ(トップページ)を一新

メールマガジン担当

- ・月1回メールマガジンを配信

その他

- ・在校生からのメッセージの送付
 - 新入生全員の出身中学校に、近況報告として学生のメッセージと写真を送付

夏季体験学習

機械工学科



電子制御工学科



生物応用化学科



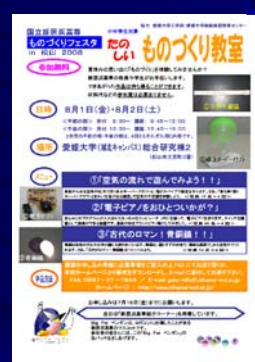
電気情報工学科



環境材料工学科



ものづくりフェスタ in松山 2008



在校生からの メッセージ

平成20年度 生物応用化学科1年生
近況報告(在校生からのメッセージ)

新浜田市立角野中学校

お世話です 今年度も、先生方、 先輩のみなさんの お力添えのおかげで、 勉強も、部活動も、 楽しく頑張っています。 これからも、 先生方、先輩のみなさん の指導をうけて、 がんばります。	こんにちは 今年度は、先生方、 先輩のみなさんの お力添えのおかげで、 勉強も、部活動も、 楽しく頑張っています。 これからも、 先生方、先輩のみなさん の指導をうけて、 がんばります。	今年度も、先生方、 先輩のみなさんの お力添えのおかげで、 勉強も、部活動も、 楽しく頑張っています。 これからも、 先生方、先輩のみなさん の指導をうけて、 がんばります。
--	--	--

新浜工業高等専門学校

意見交換

1. 最近の学校の主要動向の報告

(佐々木委員)

卒業予定者の進路のうち、就職内定の内訳で県内とあるのですが、新居浜市内となるとどのくらいになるのですか。

(森澤校長)

これはいつもお叱りを受けるのですが、就職する大半が、大企業といいますか、東京、大阪に行っておりまして、県内も含めまして地元に残る学生がだいたい2、3割程度です。年度により差はあろうかとは思いますが、そういうことで、もう少し地元に残るようにしてはくれないかというような話を聞くこともございます。例えば、佐々木委員が理事長をされている東予産業創造センターでプラントメンテナンス事業を行ってらっしゃるので、そういうものに参加して、地元に残る学生も増えればと、努力をしておるところですが、就職自体について、なかなか強制はできませんので、そういう意味では、ご迷惑をおかけしているところではありますが、よろしくお願いいたします。

(佐々木委員)

これはおっしゃるとおり、市内の地域、企業に魅力がないとのことかもしれないので、学生だけの問題ではないのですが、市内の求人はあるのですね。

(森澤校長)

それは、かなりございます。

(小松議長)

求人が増えているのは、県内、県外どちらが多いのですか。

(森澤校長)

それは、両方増えております。

(谷口副校長)

佐々木委員からの問い合わせですけれども、市内の企業の方々といろいろお付き合いさせていただいているのですが、その方たちからも、高専の卒業生はなかなか新居浜市内の企業に来てくれないとの声を聞くのですが、市内への就職を希望する学生はいます。ただ、中小企業を選ばないという傾向はあります。ですから、希望先としては、住友と名前の付いた企業、地元の企業でも、中堅の企業でOBが何名か既に就職している企業に就職希望者が偏っているという状況であります。

(平田委員)

国際交流は、3年目になりますが、何か成果等ありましたら教えてください。

(早瀬国際交流推進室長)

国際交流は、平成18年度に上海、19年度にシカゴ、本年度はオーストラリアに行っております。オーストラリアに行ったのは、主に、しっかり英語を勉強してもらう動機付けとして現地大学で英語の授業等を行ったのですが、1週間程度の研修旅行ですので、それほどの英語の上達はその場では望めないだろうと、ただ、現地でホームステイをしたりし、いろいろな人たちと交流をすることにより、英語でコミュニケーションする楽しさや、もっと英語を勉強しておかないといけないという自覚をしてもらう機会にはなったようです。

来年度につきましても、今回、国際交流協定を結びましたので、オーストラリアの方へ研修旅行を予定しております。その後につきましても、また、アジア圏の方にも候補地がありますので、そちらの方にもと、今から計画しているところです。

2. 前回運営諮問会議のフォローアップ報告

(黒木委員)

国際交流については、さまざまな活動を行っているというお話ですが、サザンクロス大学は同じような技術系の大学なのでしょうか。あと、大学との協定を結んでおられるということなのですが、具体的にはどういうことをなさっているのですか。

(森澤校長)

残念ながら、工学部はない大学となっております。サザンクロス大学は、3つほどの分野に分かれていて、アート関係やビジネス・ツーリズム&インフォメーションテクノロジー、ヘルスなど看護学、環境科学などといったものもございます。新居浜高専と関係があるという意味では、情報科学、一般教養のスポーツ、語学関係、環境、生物などといった分野で共通しているのかと思います。

(平田委員)

国際交流協定を結んでいるのは、オーストラリアだけではなくて、ほかにもあるのでしょうか。

(森澤校長)

国際協定を結んだのは、初めてでございまして、それまで、上海電力学院やシカゴのイリノイ大学で、そのような話をさせていただいたのですが、先方が乗り気でないということもございまして、差しあたり結ばせていただいたのは、サザンクロス大学が初めてでございまして。他の高専では、結構結んでいるところが多く、そういう意味では、私どもは、遅ればせながら結んだという感じでございます。

(加藤 青野委員代理)

国際交流というものは、今後とも非常に大事な分野だと思うのですけれども、今後の国際交流の方向性についてどのように考えておられるのかお聞かせいただきたい。

(森澤校長)

英語学習の動機付けというのもひとつでございまして、経済的な側面から見れば中国との関係、あるいは韓国との関係についても大事だと思いますので、固定的に考えずに、いろいろな方向性で探っていきたいと考えております。

あと、協議前で固まってはいたのですが、今後、四国内の既に国際協定を結んでいる学校と連携することによって、相互に学生が希望する分野に参加できる形を模索していきたいと思います。

(小松議長)

卒業生へのフォローアップの話がありましたが、よく「7・5・3」中卒者の7割、高卒者の5割、大卒者の3割が3年以内に仕事を変えてしまうと言われますが、高専卒業生の仕事の定着率はどうですか。

(谷口副校長)

ちょっとそこまでは確認していないのですが、卒業生に対するアンケートを定期的に行っており、その中の学校に対する要望で「授業でこんなことを教えて欲しかった。」等の調査結果が出ており、それをできるだけ反映していけるように考えております。それからあと、卒業生が何らかの理由で地元に戻って来たいという、Uターン希望者がときどきいます。そのような学生に対しては、四国のUターン希望者の就職支援事業等を行っている四国生産性本部というところがあって、それに新居浜高専も参加し、支援を行っています。ただ、定着率についての調査は実際には行っていません。

(小松議長)

愛媛大学の県内へ就職する学生の数も比較的少ないのですが、3年以内に都会に行っても辞める学生が結構いるのですね。ですから、3年は指導教員が面倒を見て、相談に乗るように、次に就職する場合は、なるべく県内に帰ってくるように指導すべきであると言っています。愛媛大学も愛媛にある大学なのだから、愛媛の発展を担う人材を育成するのが

我々の最大の任務だと思っているのです。そうでなかったら、愛媛大学は愛媛になくていいと思うのです。新居浜高専も、多分そうだと思うのです。新居浜高専も地元の人材を育成しないのであれば、新居浜にある必要がないと思います。そのくらいの意識でやる必要があると思います。そうは言っても、親がそれを許さないというのはありますけれど。大企業に行け、というのがありますよね。まあ、そういう点で、意識を変えていかなければならないというのはあるのでしょうか。大学の教員には、地域への就職を勧めるように言っているのです。そうやって、大学文化を変えていく必要があるのではないかと思いますのですけれど。

それから、今の学生はメンタル的に非常に弱いところがありまして、非常に悩みを持っていて、メンタルヘルスケアというものが非常に大事なものの一つになっているのですが、その辺はどうか。

(森澤校長)

学生相談室というものを設けておりまして、そちらの方で、年に3～4回、教員を集めて研修会を行ったり、機構本部でメンタルヘルス研修会が行われたりするので、そこへ相談室の教員や新任の校長が参加して、いろいろな情報を仕入れ、いろいろな相談に資するように努めております。

(小松議長)

増えていませんか。

(谷本学生主事)

メンタルヘルス関係で、問題のある学生は実際に増えております。そこで、学生相談室が中心となって対応し、学外からもカウンセラーを3人招き、カウンセリング体制を整えております。

(塩田 北山委員代理)

J A B E Eについて、新居浜高専はずいぶん早くからJ A B E Eに取り組まれていて、私の記憶では応用化学が2003年くらいでしたでしょうか。もっと早いのですか。

(早瀬専攻科長)

今年度、継続審査を受けましたので、それくらい経ったところです。

(塩田 北山委員代理)

あと、生産工学・電子工学と先生方も非常に努力されていると思うのですが、このあたりで、先ほどの求人倍率等、非常に高かったと思うのですが、そういうのは、産業界の評価というものが関係してきているのでしょうか。

(早瀬専攻科長)

J A B E Eの知名度という点では、それほどではないと感じています。それよりは、全国の高専で、専攻科数が増えてきているので知名度が上がってきて、求人が増えてきていると、私は個人的に思っております。

(塩田 北山委員代理)

ありがとうございました。

3. 機関別認証評価の結果

(佐々木委員)

総合評価として、格付けが各高専についてされるものなのですか。他の高専と比べてどうかというような、相対的な評価などもされるのですか。

(塚野点検専門部会長)

総合的な評価というものはございません。受審した高専ごとに優れた点等の記載が発表されるということです。

(佐々木委員)

では、高専ごとに、Aが何個でBが何個というようなことではないのですか。

(塚野点検専門部会長)

そうですね、具体的には、こういう優れた点がありますということで評価書に記載されています。

(森澤校長)

認証評価自体の目的が、そもそも高等教育機関としての基準を満たしているかという観点で行われて、順位付けというよりも、そういった角度で行われているのです。

(佐々木委員)

最近、自治体もよくランク付けされ、大学等もそういうランク付けの話がよく出るので、良いか悪いかはさておき、高専としてそのような横並びに見られるということはないのですね。

(塚野点検専門部会長)

そうですね。

(小松議長)

今までは、事前に評価して、大学等として出発していいですよというだけだったのですが、これからは、7年間に1回は事後評価を受けてくださいといったもので、大学等として基準を満たしているか、このままでいいかどうかということの評価するそれだけなのです。ただ基準を満たしていればいいだけなのです。ランキングとはまた違うのです。

改善すべき点は指摘されませんでしたか。

(塚野点検専門部会長)

先ほどお示ししました内容に則しております。評価書の中に記載されるということはありませんでした。

(小松議長)

そうですか。

(塚野点検専門部会長)

この認証評価は、基本的に優れた点の評価しようという姿勢で行われると聞いております。そして、改善点がありましたら、改善点につきましても、それを指摘して改善に結びつけて欲しいという方針で評価するということでございました。

(加藤 青野委員代理)

大変先進的な取り組みをされているかと思います。その中で、相対評価ではなくて、基準を満たしているかという絶対評価であるという話をお聞きした中で、例えば、他高専の優れた点等について、新居浜高専がそれを取り入れ、それに取り組むことによって、もっとも新居浜高専が素晴らしい高専になると思うのですが、その辺りの考えについてはいかがでしょうか。

(森澤校長)

やはり、現状にとどまることなく、常に改善に努めていかなければならないと考えております。

(加藤 青野委員代理)

資料No.3の2ページ目にある選択的評価事項A 研究活動の状況の優れた点で「知的財

産関連では取得したノウハウについて製品が発売されるなど、特色ある取組が行われている」という記載がありますが、これまでに、具体的に製品化されたものが分かればお教えください。

(川崎高技センター長)

これにつきましては、電子制御工学科の出口教授が I T 教材を開発して、秋葉原で販売しております。教材製作に関しては、高専は得意としており、大学などでは、なかなか手がでないということで、各方面で結構人気があります。この 1 件であります。

4. 地域と連携した教育活動の取組

(竹田委員)

小中学校に関係することですので、まずはお礼を述べさせていただきます。小中学校の理科等の出前講座につきましては、本当にお世話になりました。ありがたく思っております。愛媛県教育委員会も19年度から文部科学省の予算もありまして、特に理科教育に力を入れるということで、県の教育センターに事務局を置いて、各小中学校へ、特に実験関係で指導ということで強化しております。教育センターは松山ですので、周辺になりがちなのですが、今日話を聞いて、新居浜、西条地域の小中学校で、これだけの出前講座、出前活動をしていただいているということで、ありがたく思っております。そういう中で、非常にご苦労があると思いますので、そこら辺を質問したいと思います。特に、企画・運営というものは大変であろうと思います。あれだけ講座もありますので、企画・運営についての課題や、特に会を開くとなれば、案内の仕方、人集めの工夫、あるいは指導する先生方のご苦労もあろうかと思います。そういう部分の課題があれば、お教えいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

(川崎高技センター長)

先ほど申しあげましたコーディネーターが、中学校の理科の校長先生のOBでございます。この方は教育委員会とよく連携されておられ、この方にお世話になっております。これが第1のポイントでございます。もう1つのポイントは、実技研修会に来られている先生方に、主体的に出前講座への申請をしていただいております。小中学校の先生方への研修会と出前授業を連動させているということがポイントかと思います。出前活動の実際の準備等については、学生を主体としておりまして、学生が事前準備に取り組んで、先生方は現場に行くだけというケースも多くあります。

(竹田委員)

企画・運営はどちらの方で立てられるのですか。

(川崎高技センター長)

企画・運営は、実行委員打合せとして毎週1回、1時間半ほど打ち合わせをしております。高技センターとものづくりセンターのセンター長、副センター長、濱田先生で打ち合わせをしております。

(佐々木委員)

私どもも、お世話になって、ありがとうございます。一つずつ聞いておりますと、私自身もよく承知していないようなものがあるぐらいたくさんあるという意味で、こどもたちと先生への取組をしていただいております。逆に、市の方へ要望、改善があればお聞かせ願いたいのですが。

(川崎高技センター長)

中学校の理科ですが、授業の時間割を変えることが難しいというポイントがございます。これは技術科も同じかと思います。従いまして、中学校を増やそうと思っても、壁がございます。これにつきましては、新居浜高専の方で授業時間内に出られるような工夫をしなければならないのではないかと考えております。中学校につきましても、夏季実技研修会を開催しておりますので、先生方の一層のご参加をいただくと嬉しいかと思っております。

(佐々木委員)

小学校の方は、総合的な学習の時間が4月から減るようなので、理科の時間を使うということですか。

(川崎高技センター長)

はい。理科の時間を振り替えまして、例えば1組、2組、3組をまとめて、時間の振替をしていただいております。そういう意味では、ご迷惑・ご苦労をおかけしております。感謝しております。1回で広いところで1度に行うケースもあります。また、連続的に1組が1時限、2組が2時限といったように、1時限から4時限まで、同じテーマを続ける

ケースもあります。小学校の方では、時間の融通をしていただきまして、感謝しております。

（加藤 青野委員代理）

本当に、地域貢献という意味で、工都新居浜の未来を支える子どもたちに対する出前授業というものには、頭が下がる思いがします。そういう意味で、例えば、夏休みであるとか冬休みであるとか、特に中学校以降の理科離れが言われて久しいかと思います。やはり、実験は思考能力の向上につながっていくと思いますので、中学校の場合、特に難しい高校受験とかあるかと思いますが、是非、長期休みの期間を利用して、今後とも小中学校に対する出前授業の継続をお願いできたらと思います。

（川崎高技センター長）

今月で、事業は終了しますが、来年度以降も変わらず実施していこうと思っております。

5. 入学志願者の確保について

(竹田委員)

広報活動では、松山市内の学校を含めて学校訪問等していただき、ありがとうございます。また、資料もいただいて、生徒に渡すという形で周知をしていますが、やはり、決定的に生徒が自覚を始めますのが、9月の学校説明会です。これに出た生徒は、だいたい受験しているようです。そういうことがあって、受験する生徒が始めから自覚するというよりも、案外、親の方に情報があり、親が生徒に勧めて、そして本人が納得する形が、我が校にはあるようです。最終的には生徒も、ここに行きたいと希望して来ている訳ですが、そこら辺の入学してからの学生の入学の動機のようなアンケートがあれば参考にさせていただきたいのですが。

(谷口副校長)

そういう受験に関するアンケートにつきましては、毎年、新入生アンケートという形で実施しております。どういう動機で本校を選んだのかという項目では、親の勧め、自分で決めた、先輩に話を聞いて等があるのですが、その中でも、親の勧めという回答が上位であったように記憶しております。

本校の推薦基準を4.0から3.8に決めた訳ですけれども、推薦していただいた際に、中学校ごとにどの程度ばらつきがあるのですか。例えば、この中学校では4.0、同じ学力の生徒が別の中学校へ行っても、4.0なのか3.0なのか5.0なのか。そういったところがどうしても知りたいところなのです。

(竹田委員)

中学校によって状況も違うと思うのですが、基本的には絶対評価ということで、通信簿を5段階評価でつけることになっております。新居浜高専へ提出している県立入試と同じ一覧表を分析していただければ、学校によって、上下の違いがあるのが分かるのではないかと思います。5段階評定で比較して、推薦入試で採ろうということであれば、以前からのデータで比較できるかと思います。難しいかも分かりませんが。

(小松議長)

時間が非常におしておりますのでこの辺で終えたいと思いますが、最後に何か是非発言したいということがございましたらどうぞ。

(佐々木委員)

今の社会情勢で、先ほど竹田委員とも始まる前に、義務教育における給食費が納められない等という家庭が増えてきておりまして、高専もいろいろそういう制度があるのですか。家庭の事情で学業が続けられなくなると、奨学金や貸付制度があるのですか。詳しいことは知らないのですが、何とかそういう事情がある学生がいたら、いろいろな形で支援していただければと、お聞きしたいのとお願ひでございます。

(谷本学生主事)

毎年、授業料免除を行っております。だいたい全額免除ということで、数十名ほど免除しております。そして、奨学金につきましては、様々な奨学金がございますので、緊急奨学金と併せて紹介しております。実際のところ、本校学生の家庭の経済状況が厳しいものがあるという学生も増えておるようです。

(小松議長)

それでは時間になりましたので終わりたいと思います。全体の印象では、非常に多彩な教育、研究、地域連携の活動がなされているし、広報活動にしても、入試、受験生のための活動を非常によくやられていると思います。ただ残念なのは、せっかく集めた学生を地元ではなく、都会に送り出すということです。これは非常に残念なので、我々も一緒に努力したいと思います。

それでは、本日の運営諮問会議を終了したいと思います。どうもありがとうございます。

（６）委員の追加意見・要望等

１．機関別認証評価の結果

評価結果をフィードバックすることにより、学校運営の改善に役立てるとともに、定期的な評価の実施により、学校における教育研究活動等の質が保証されていくものと考えます。

また、今後においても同評価の公表により、学校の状況を明らかにし、それらを社会に示すことにより、公共的な機関として新居浜高専が高い教育研究水準を維持しながら、適正な学校運営が継続されていることについて、地域の広い理解と支持が得られていくことを期待いたします。（佐々木委員）

「自学自習シート」「セルフプランニング実験」の取組みが評価されたのは大変喜ばしいことと思います。

就職率、進学率が高くなっていることは大いに評価できることです。ただ過去の日本全体の傾向として大学崇拜の時期がありましたが、高専が学歴主義の幻影に取り憑かれていないかと心配しています。進学して更なる勉強、研究を続けたいというのは評価できますが数が多いほど良いとは言えない。全員目標は違うはずで、進学する者は数%が妥当と思われる。単に年齢だけで高専卒を短大卒相当と扱ってきたせいでもあります。昔は大卒並みとして扱われ、就職試験も大学生と並んで受けたものです。学歴偏重社会をもういいかげん壊す必要があるし高専がその突破口となれそうな気がします。（平田委員）

種々の角度から、多種・多様な取組が計画、実行されており、その成果が多くの「優れた点」として評価されているものと推察いたします。今後とも優れた点の更なるブラッシュアップや自己評価書に掲載した問題点の改善等、更に高い成果を目指して活動されるよう祈念致します。（塩田 北山委員代理）

２．地域と連携した教育活動の取組

現代G P事業において取り組まれている「小中学校教員教材開発実技研修会」や「まちづくり3プロジェクト」等については、現代G P事業終了後も新居浜高専独自の地域連携事業として継続されるよう望みます。

また、地域産業との連携促進や子どもたちの理科離れ・ものづくり離れなど、地域が抱える課題の解決において、貴校のもつ技術や情報、人材などが一層活かされていくことを望みます。（佐々木委員）

出前授業は社会との接点、学力の向上等、受身人間からアクティブな活動をするタイプに変えてゆける素晴らしい取組みと思います。三方良し。

学生の参加分布の偏りが気になります。それと多量の学生＆先生に参加して欲しい。（平田委員）

現代G Pをベースとして、30回を超える出前授業による小中学校の科学教育の支援、これを遂行することによる学生の実践的人材教育、さらには高専市民講座や、ものづくり・実験を主体とした小中学生向け出前講座の開催等、高専の地域と連携した教育活動は先生方や学生の多大のご努力により着々と成果を上げているものと思われます。現代G P終了後もこれらの活動の継続、発展を期待しております。（塩田 北山委員代理）

３．入学志願者の確保

上記２に記述させていただいた地域との連携に対する積極的な取り組みが、入学志願者の確保に繋がるものと考えます。

また、公開授業の実施やマスメディアを活用した教育的成果の公開などPR活動の充実

も検討の余地があると考えます。

(佐々木委員)

鳥人間コンテストやロボコン等、強力に支援して学外に名を知らしめ、子供達の憧れの学校像をつくってゆく必要がある。

(平田委員)

少子化の折、優秀な学生の確保に先生方が大変な努力をされていることが、よくわかりました。受験者である中学生に対し高専を知ってもらうために各種のイベントを実施されておりますが、将来を技術者として歩むことを受験の段階で決定しなければならない中学生にとっての判断材料、動機付けとして、かかる活動は極めて重要であると思います。

(塩田 北山委員代理)

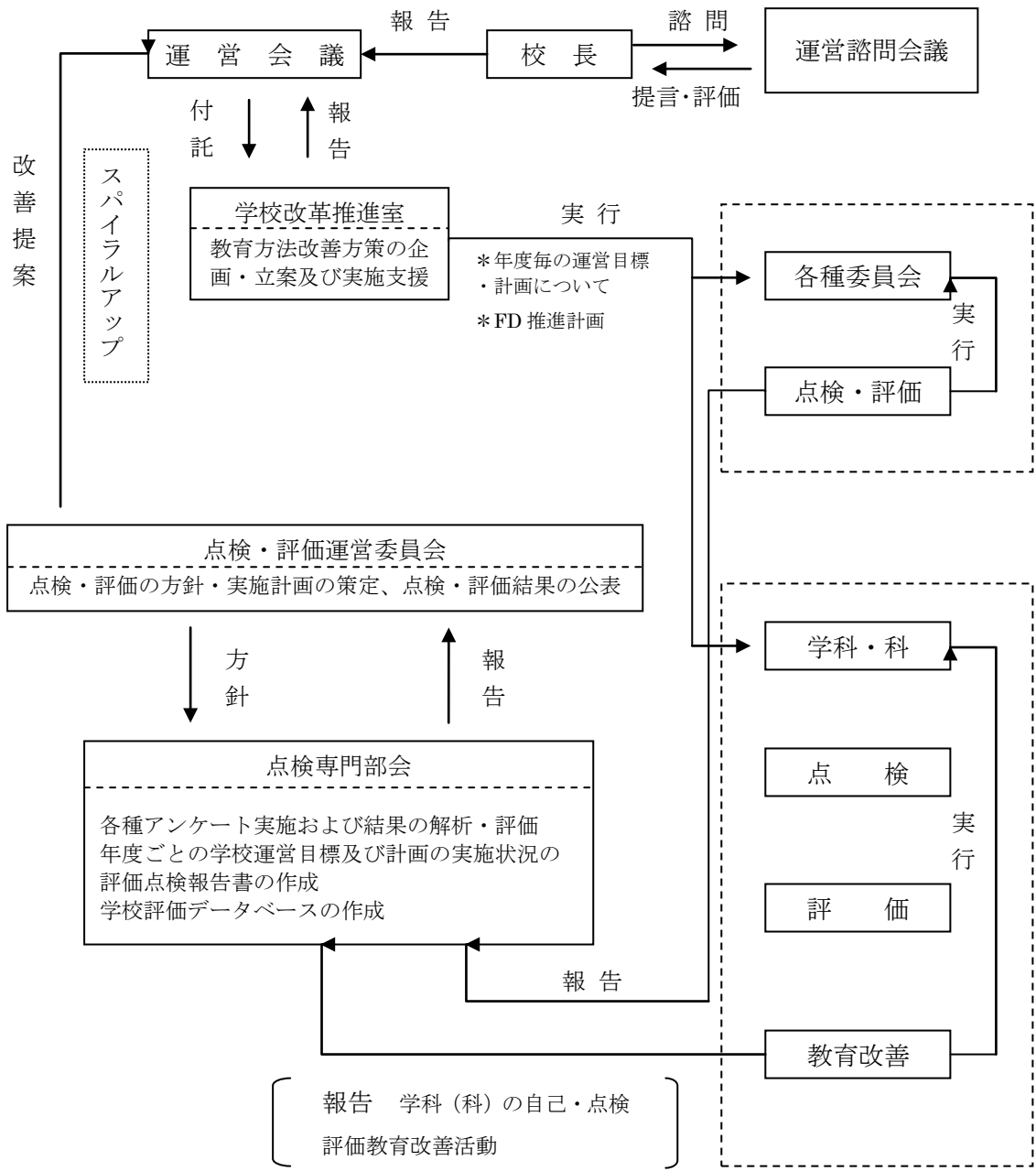
4. その他

特になし

第 4 回 運営諮問会議 配付資料一覧

No.	資 料 名
1	学校案内 2 0 0 8
2	はばたけ未来へ 2 0 0 9
3	平成 2 0 年度 学校運営目標・計画
4	平成 2 0 年度 教育改善推進計画
5	平成 1 9 年度 自己点検評価書
6	平成 2 1 年度 学生募集要項
7	平成 2 0 年度 本科履修要覧
8	平成 2 0 年度 専攻科履修要覧
9	専攻科 2 0 0 8
10	高専だより
11	新居浜高専メールマガジン
12	新聞記事から見た新居浜高専
13	新居浜高専における地域との連携 平成 1 7 年度～
14	地域連携プロジェクト型ものづくり活動 ～工都新居浜の活性化プラン～
15	新居浜高専 技術シーズ集 3
16	高技センター報 第 6 号
17	第 3 回 運営諮問会議報告書

教育改善等実施の組織体制図



新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程

平成 17 年2月8日規程第2号

(設置)

第1条 新居浜工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、地域のニーズ及び時代の変化に即応し、効率的かつ効果的な学校運営を確保するため、運営諮問会議(以下「会議」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 会議は次に掲げる事項について、校長の求めに応じ意見を述べるものとする。

- (1) 本校の運営基本方針及び教育研究計画に関すること。
- (2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関すること。

(組織)

第3条 会議は、本校の教職員以外の者で、高専に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから、校長が選考した若干名の委員をもって組織する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任することを妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、委員に欠員を生じたときの補欠の委員の任期は、前任者の残任期間 とする。

(会長及び副会長)

第5条 会議に会長及び副会長を置き、それぞれ委員が互選する。

- 2 会長は会議を招集し、その議長となる。
- 3 会長に事故あるときは、副会長がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 議長が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(報告)

第7条 校長は、運営諮問会議での審議事項について、運営会議に報告するものとする。

(事務)

第8条 会議の事務は、総務課において行う。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 17 年2月8日から施行する。
- 2 新居浜工業高等専門学校外部評価委員会規程(平成 13 年8月 29 日規程第8号)は、廃止する。

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議報告書

平成 2 1 年 5 月

新居浜工業高等専門学校総務課

〒792-8580 愛媛県新居浜市八雲町 7 番 1 号

T E L (0 8 9 7) 3 7 - 7 7 0 0

F A X (0 8 9 7) 3 7 - 7 8 4 2

URL <http://www.niihama-nct.ac.jp/>